

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號四第 卷六第

行發日一月四年七正大

## 論說

「座」ノ研究(再ビ).....

農會瑣言.....

京都ニ於ケル舊時ノ搥屋仲間.....

營業稅ノ課稅標準(二卷).....

Uno this Lastヲ讀ム(一)卷.....

職工組合論(二).....

我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達(三).....

## 時事問題

米國禁輸問題ノ解剖.....

勸業及農工銀行ノ合併ニ就テ.....

## 雜錄

大阪市ニ於ケル窮民ノ家計(一).....

續獨逸經濟學界近況(二).....

物價卜割引歩合卜ノ平行.....

米國ノ戰時海運政策(二卷).....

米國ノ戰時租稅法(二).....

帝國統一後ノ獨逸ノ植民の活動(上).....

文學博士

文學博士

文學博士

文學博士

文學博士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

文學士

三浦 周行

財部 靜治

本庄 榮治郎

神戶 正雄

河上 肇

河田 嗣郎

銅直 勇

神戶 正雄

戸田 海市

櫛田 民藏

米田 庄太郎

高田 保馬

岸本 熊太郎

阿部 賢一

山本 美越乃

續獨逸經濟學界近況 (一)

米田庄太郎

近著ノ伊太利ノ社會學雜誌 (Rivista Internazionale di scienze sociali e Discipline Ausiliarie. Dicembre, 1917), 144 終

第六卷 (第四號 一三三) 五七五

テ、又獨逸經濟學雜誌近號中ノ數種ノ論文ガ、紹介サレテ居ルコトヲ見出シタカラ、茲ニ「續獨逸經濟學近況」ト題シテ、之ヲ譯シ、以テ同學ノ士ノ參考ニ供スルコトトスル。

まい氏ノ「獨逸國民ノ消費スル食物ノ營養價值」<sup>(1)</sup>

本論文ハ獨逸ノ最トモ重要ナル經濟學雜誌ノ殆ンド百二十頁ヲ占ムル長論文ニシテ、まい氏ノ甚ダ精密ニシテ、有益ナル研究ヲ發表セルモノデアル。同氏ハ本論文ニ於テ、今日ノ獨逸國民、即チ敵國ニヨリテ周圍ヨリ全ク封鎖サレタル獨逸國民ガ、消費スル諸種ノ食物ノ營養價值ヲ測定セント試ミテ居ルノデアルガ、科學的材料ニ基ヅキテ行ハレタル此ノ研究ハ、千九百十二年頃ヨリ獨逸ニ於テ續々現ハレ始メ、而シテ目下ノ大戰爭ト其ノ恐ル可キ影響トガ、段々之ヲ増加セシメ、今ヤ甚ダ豐富ナル文献ヲ有シテ殆ンド特別ナル一學問ヲナスマデニ至レル諸研究ノ、重要ナル一部分ヲナスモノデアル。又此ノ學問ハ平和ノ曙光ガ不幸ナル血マミレノ歐羅巴ノ上ニ照リ初メタル後モ、確カニ放棄サレナ

イデアラウト思フ。是レ戰後總テノ國民ガ戰時中胸ニ受ケタ深キ創傷ヲ癒ヤス爲メニ、近世ノ學術ヲ應用シテ、大ニ節儉政策ヲ實行セントスルニ當テ、甚ダ貴重ナル教ヲ與ヘルモノデアルカラデアル。

獨逸國民ガ饑餓ト戰フニ於テ、大ニ科學ニ依賴シナケレバナラヌコトハ云フマデモナイ。而シテ英國ノ封鎖政策ガ彼等ヲ陥レントセル其ノ深淵ヨリ、彼等ヲ救ヒタルハ、實ニ科學ノ研究デアル。併シ之レト同時ニ科學モ、亦戰爭ヨリ研究ノ刺激ヲ與ヘラレタト云フ點ニ於テ、戰爭ニ負フ處多イト云ハネバナラヌ。實ニ科學ハ、人間ノ生命ト健康トヲ、維持スルニ必要缺ク可カラザル蛋白質ノ最小限量ヲ、研究スルコトニヨリテ、甚ダ貴重ナル實驗ヲ成就シタノデアアル。而シテ其等ノ實驗ハ、箇人ニ必要缺ク可カラザル蛋白質ノ日々ノ分量ハ、生理學者ガ戰爭前ニ想像シ、要求シテ居ツタ其ノ分量ヨリモ少ナルモノナルコトヲ證明シタガ、此ノ事ハ今日破壊シ難キ鐵柵ヲ以テ國境ヲ圍マレタル獨逸國民ニ

1) R. C. May, Der Nachwerth des deutschen Volkskonsums. (Schmollers Jahrbuch. Zweites Heft. 1917.)

トリテ、甚ダ重大ナル意義ヲ有スル。是レ彼等ノ食料問題ノ中核ヲナスモノハ蛋白質問題デア  
ルカラデアアル。

本論文ハ吾人伊太利人ニトリテモ、亦重要ナル意義ヲ有スル。而シテ夫レハ只科學的理論的方面ニ於テ、云フバカリノ事デハナクシテ、實際的方面ニ於テモ亦同様デアアル。今日總テノ國民ノ遭遇スル異常ナル事情ノ爲メニ、諸種ノ食物ノ消費ハ、大ニ節約サレネバナラヌ。何レノ國民モ食物ヲ浪費スルコトガ出來ナケレバ、又決シテ之ヲ浪費シテハナラナイ。何レノ交戦國民ニアリテモ、食物問題ハ日々重大ナルモノトナツテ居ルガ、更ニ多數ノ中立國民ニアリテモ同様デアアル。食物ノ節約ハ實ニ今日デハ世界ノ一大問題トナリツツアルノデアアル。

本論文ハ營養問題ニ就テハ、第一流ノ大家タルえるつばつひやー及ビばるろと二氏 (Hilander e Ballod) ノ作成セル多數ノ表ヲ擧ゲテ證據トシテ居ル。又多年間其ノ力ノ大部分ヲ此ノ問題ノ研究ニ献ゲタルりゆぶな一氏 (Ridner)

ノ達着セル結論ヲ引用シテ論旨ヲ確カメテ居ル。りゆぶな一氏及ヒ其ノ他ノ衛生學者ハ、獨逸人ノ平均體重ヲ四十五きろぐらむト計算シ、而シテカカル體重ノ人間ニ對シテハ、日々蛋白質六十ぐらむカラ六十二ぐらむマデガ必要デアアルト推測シテ居ル。即チ體重一きろぐらむニ對シテ、蛋白質一ぐらむ三七八カラ一ぐらむ五三三マデガ必要トナル割合デアアル。しゆむべるく氏 (Schumburg) ハ稍々之レト異リテ、體重七十きろぐらむノ人間ニアリテ、日々蛋白質七十ぐらむ攝取スレバ、夫レデ十分デアアルト主張シテ居ル。即チ體重一きろぐらむニ對シテ蛋白質一ぐらむノ割合ニ當ル。而シテりゆぶな一氏ハ戰時中ノ獨逸人ノ營養ニ就テ、平均體重ハ上ニ述ベシ如ク四十五きろぐらむトシテ、各箇人ノ平均消費ハ、蛋白質八十九ぐらむ、脂肪質六十二ぐらむ、含水炭素四百六十ニシテ、其ノ熱力ハ總計二千九百三十二きやろりーニ當ルト計算シテ居ル。

まい氏ノ論文ハ上ニ述ベシ如ク、甚ダ有益ナ



